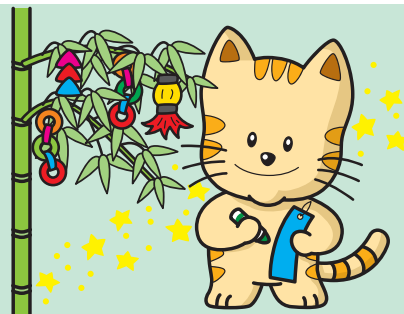


母と子のにわ

—利用者みなさまと大阪母子医療センターをつなぐ—



vol.50 2022年6月

新病院長

就任のごあいさつ

この度、川田病院長の後任として、病院長に就任した光田信明みつだのぶあきです。私の専門分野は産科医療です。当センターは1981年に開院し、私は1982年に医師となり、常に当センターと関わり、強い影響を受けてきました。当センターと患者さんとのかかわりにも似た部分があって、病気が治ってしまえばそれで終わりではなく、産まれる前から産まれた後まで長いご縁を患者さんにいただきます。当センターで最初に産まれた赤ちゃんはすでに40歳を超えており、その後も途切れることなく通院いただいている患者さんもおられます。当センターは、私も含め、出産という一大イベントに始まり、子どもから成人へと成長していく過程の患者さんにたずさわる機会にも恵まれてきました。



このような“継続した（サステナブル）医療”を提供することも当センターの大きな使命と考えています。当センターは開院以来、高度先進医療を推進し、我国の周産期・小児医療をリードしてきました。そのためには、新規医療の導入はもとより、医療人の世代交代、医療を超えた患者さん支援等の導入も行ってきました。

お産については胎児医療（胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術（レーザー手術））も積極的に取り入れ大阪府内だけではなく、西日本全体から広く受診いただいています。その他、早産、妊娠高血圧症候群、子宮内胎児発育遅延、多胎等に広く対応しています。また、麻酔科医による無痛分娩も24時間体制で行っています。帝王切開を受け、次回妊娠の際に経膈分娩（TOLAC）を希望される妊婦さんの相談にもなっています。

小児部門は外科部門の脳神経外科、心臓血管外科、小児外科（肺、腹部）、泌尿器科（腎臓）、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、口腔外科、形成外科で手術が行われています。内科部門では、骨髄移植、不整脈、内分泌疾患、てんかん、アレルギー、喘息、子どものこころの問題、遺伝性疾患、各種感染症の診療、リハビリテーション等を提供しています。救急においては、大阪府重篤小児患者受入ネットワーク拠点施設であり、2020年2月には大阪府より二次救急告示医療機関に認定されました。今年4月からは小児一次救急医療機関として軽症や初期救急・休日夜間の急患（当番制）にも対応しています。検査・処置・手術に際して、鎮静・麻酔が必要な場合には、小児を専門とする麻酔科医師が24時間対応しています。このように、お子さんの健康に求められるあらゆる医療を幅広く提供しています。

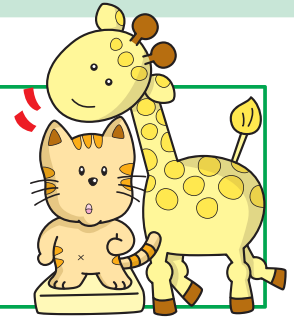
コロナ禍では感染者の妊婦さんにも対応し、小児は重症例も含め専用病床で多数のお子さんを受け入れました。

お子さんは人間として成長する途上にあります。安心・安全な医療提供はもちろんですが、お子さんの成長を見据えた事業も提供しています。発達外来、エコチル事業、WHOへの協力等々、国も成育基本法を整備し、人が産まれてから成人になるまでの支援体制に取り組んでいこうとしています。われわれ、大阪母子医療センターも母と子にサステナブルで良質な医療提供を目指しています。今後ともご理解・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

（病院長 光田 信明）

大阪母子医療センターの
得意な診療

低身長、体重増加不良



前回号までの「大阪母子医療センターの高度な医療」からリニューアルし「大阪母子医療センターの得意な診療」を新シリーズとしてお送りします。

背が低い、背が高いというのは誰かと比較して決まるものなので、背が低いからといって何か原因となる病気があるとは限りません。一般的には同じ年齢の子どもさんと比べて 100 人中前から 2 番目以下の身長である、あるいは身長の伸びが非常に少ない状態が2年以上続いているなど、一定の基準を満たしている場合に医学的な低身長症、もしくは成長障害と考えます。成長ホルモンの分泌力を評価するには特別な分泌刺激試験を行う必要がありますが、当センターでは年間にのべ 220 回くらい行っています。現在日本で小児期に成長ホルモンによる治療が認められている病気としては成長ホルモン分泌不全症、胎児期から体が小さい状態が続く SGA 性低身長（SGA は small for gestational age の略）、ターナー症候群、プラダー・ウィリー症候群、ヌーナン症候群、腎不全、軟骨形成不全症の 7 つです。当センターでは毎年 45 名くらいの患者さんが成長ホルモンの治療を始めており、現在約 450 名の患者さんが治療を継続中で、これは日本でもトップクラスの人数です。

子どもの体重が増えにくい状態が続くと保護者のみなさんは不安になると思います。少しやせぎみであっても、それなりに一定のペースで体重が増えているようであれば大丈夫なことも多いのですが、ずっと横ばいだったり、体重が減ったりしている場合は要注意です。赤ちゃんの場合は哺乳量不足が原因のことが多く、ご家族からミルクや離乳食の摂取状況を詳しく聞いて、飲ませ方や食事形態の工夫を行ったりします。幼児期以降の子どもが急にやせてきたり、食べなくなったりした場合は何らかの病気が原因となっている可能性が高いため、詳しく検査をする必要があります。甲状腺機能亢進症のようなホルモンの異常や、クローン病のような腸の病気、あるいは心理的な問題による摂食障害などさまざまな病気がないか調べるとともに、栄養状態の改善を図ります。

低身長の約 8 割は体質的なものであり、病気ではないけれど体格が小さいという子どもさんもたくさんおられますが、保護者は周囲からいろいろ言われて辛い思いをされることがよくあります。「食が細い」と言って悩む方も多いのですが、体が小さいと胃も小さいので、一度にたくさん食べられないのは当たり前なのです。そんな場合は夕方、園や学校などから帰ってきたときにお菓子や果物などのおやつの代わりに軽食を与えるようにしてみてください。具体的には炭水化物と蛋白質の組み合わせがお勧めです。

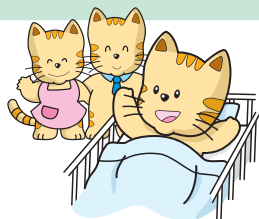
体格はその子の個性の一部に過ぎません。小柄であることを親が気にしすぎてしまうと、子どももよけいつらくなってしまいます。子どもの良いところをしっかりほめて、認めてあげましょう。

(消化器・内分泌科 恵谷 ゆり)



母子健康手帳には乳幼児期の成長曲線が掲載されています。

インターネットでも見るすることができます。成長の記録をつけてみて、もし不安があれば、ぜひご相談ください。



面会制限のお願い

小児棟

- 12～20 時の間
- ご両親のみ

をお願いします

母性棟

- 週 2 回まで
- 夫（パートナー）のみ

をお願いします

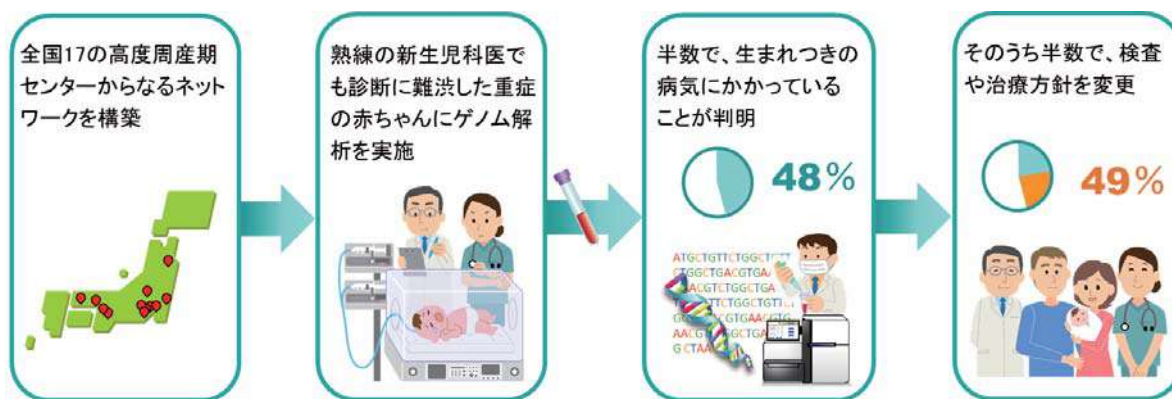
最新情報は
ホームページを
ご確認ください

(2022 年 6 月 20 日現在)

病気の原因がわからない赤ちゃんに対するゲノム解析の有用性を確認 — 全国で診断に難渋した 85 名の約半数で原因が判明 —

日本の新生児医療は世界最高水準であることが知られていますが、それでも新生児集中治療室に入院する重症の赤ちゃんの 1 割程度で、病気の原因がわからないことが課題となっています。そこで、新生児科医と遺伝学研究者からなる全国チーム（大阪母子医療センターを含む 17 の高度周産期医療センターからなるネットワーク）を作り上げました。従来の検査法では原因を決めることができなかった 85 名の重症の赤ちゃんに対して、ゲノム解析という新しい方法で原因の究明を試みました。その結果、約半数（41 名）で先天的な疾患の原因となる遺伝子変異が判明しました。さらにその約半数（20 名）では、検査や治療方針の変更が行われ、このゲノム解析が新しい時代の医療技術として極めて有用であることを示しました（図）。遺伝カウンセリングも行われました。本検査により、不必要な検査、身体に負担のある検査（例；肝臓の組織を採取するなど）を回避できたり、また、赤ちゃんに適切な治療を選択したり、それぞれに適した個別化医療を進めることができる可能性があります。

* 本研究成果は、小児科学分野を代表する国際誌である『The Journal of Pediatrics』に掲載されました。



（研究所長 遺伝診療科 岡本 伸彦／新生児科 野崎 昌俊）

脳神経外科 新任部長

就任のごあいさつ

2022年4月、脳神経外科部長に就任しました千葉泰良と申します。当科では、小児の脳、脊髄など神経の病気に対し、主に手術で治療を行っています。水頭症や二分脊椎などの先天的な脳脊髄疾患が最も代表的な対象となります。これらは、産まれる前から診断がついていることも多く、産科、新生児科と協力しながら治療計画を立て、産まれてすぐに手術が必要になるケースもあります。その手術の出来具合がその子の将来的な神経機能に影響を及ぼしますので、非常に丁寧に慎重な手術が要求されます。そのような先天的な脳疾患以外にも、頭部外傷、脳腫瘍、もやもや病、頭蓋骨縫合早期癒合症（狭頭症）など幅広い病気に対する治療を行っています。近年は、痙縮（全身が過度に緊張してしまう病気）に対する、ボツリヌス毒素療法、バクロフェン髄注療法（体内にポンプを留置して薬を脊髄腔内に持続的に注入）や、難治性てんかんに対する手術治療にも力を入れています（てんかん外科外来には大阪大学より専門の先生に来ていただいています）。



1991年に脳神経外科が開設されて以来30年、初代、森本一良部長、二代目、竹本理部長が積み重ねてきた信用と信頼に応えられるよう努力していきます。今後ともよろしく願っています。

（脳神経外科 千葉 泰良）

小児救急の現場には症状の軽いお子さんも多く、入院が必要となるのは 50人に1人とされています。しかしながらその中には、一見軽症に見えて翌日まで待てないお子さんがおられるのも事実です。

24 時間 365 日近くの病院で専門医がすぐ対応してくれる、そのような体制が理想的です。現在、泉州地域では 8病院が交代制で小児救急を維持しており、日によっては遠くの病院に行く必要があるなど、理想的ではないかもしれません。しかしながら、地域の医療資源が限られるなか、「受診するところがない」ということは避けなければなりません。

当センターは小児救命救急センターの役割を担ってきましたが、地域の小児救急体制維持のため、2022年 4 月より泉州地域の小児救急輪番制に参加させて頂くことになりました。第 4 日曜日の 23 時から翌朝 6 時までと、まだまだ微力ですが、各病院と連携して小児救急の一角を担うことができると考えています。

(集中治療科 籾智 武志 / 竹内 宗之)

当センターホームページ「小児救急輪番制」ページをご覧ください

大阪母子医療センター 小児救急輪番制



RECIPE

医師・栄養士監修

今回のレシピはカラフルな夏野菜（トマト、ピーマン、パプリカ、なす、ズッキーニ、かぼちゃ）を電子レンジを使って簡単にラタトゥイユ風にしました。夏野菜には汗で不足しがちな水分やカリウムを豊富に含みます。また紫外線や暑さのストレスによって増加する活性酸素を抑制する（抗酸化作用）ビタミンA、C、E、βカロテンも豊富に含まれています。脂溶性ビタミンといわれるビタミンA やビタミンE は油と一緒に調理するとより吸収率が上がります。夏バテ防止にぜひ作ってみてください♪

(栄養管理室)

夏野菜のラタトゥイユ風レンジ煮



夏バテ予防

夏野菜
パワー！

1 野菜の下ごしらえ

なすはへたを取り、しま目に皮をむいて一口大に切る。ズッキーニは輪切りにする。なすとズッキーニは 1%程度の塩水にさらす。トマトは横半分に切り、皮に十字に切り目を入れ、水にくぐらせてから耐熱皿にのせてラップなしで電子レンジに 1 分程度かけて皮と種を除く。かぼちゃはラップで包み、電子レンジに 1 分程度かけて一口大に切る。たまねぎ、ピーマン、パプリカ、エリンギは各々一口大に切る。にんにくはつぶす。

Point /

なすの皮には抗酸化作用のあるポリフェノール(ナスニン)が、かぼちゃの皮にはビタミンAが豊富なので皮ごと調理するのがおすすめです。

2 電子レンジにかける

なす、ズッキーニを耐熱容器に入れ、オリーブ油の半量をかけて混ぜる。残りの野菜を加えて、塩、こしょう、残りのオリーブ油をかけて軽く混ぜる。ラップをかけて、野菜が軟らかくなるまで電子レンジに 8 分程度かける。

(※電子レンジは 600W)



大阪母子医療センターの食育レシピ

「こどもの心と体の成長・発達にいい食事」妊娠期・乳児期
P.24 に掲載されています

材料 (2人分)	なす	1/2 個	(50g)
	ズッキーニ	1/5 本	(30g)
	トマト	1/2 個	(80g)
	かぼちゃ	1/16 個	(100g)
	たまねぎ	1/4 個	(50g)
	ピーマン	1 個	(30g)
	パプリカ (赤)	1/4 個	(30g)
	エリンギ	1/2 本	(20g)
	にんにく	1/2 かけ	(3g)
	オリーブ油	小さじ 1	(4g)
塩	小さじ 1/4 強	(1.6g)	
こしょう	少々		

地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪母子医療センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

電話 0725-56-1220

FAX 0725-56-5682

<https://www.wch.opho.jp/>

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します

基本方針

- ・ 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します
- ・ 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います
- ・ 地域と連携して母子保健を充実させます
- ・ 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます